

平成 31 年 4 月 18 日

株式会社 ミライト

**福島県浪江町の復興スマートコミュニティにおいて、
災害公営住宅太陽光発電などの工事を受注**

～災害公営住宅に、IoT技術^{ローラワン}LoRaWANシステムを構築、
4月15日より、電力の遠隔検針を開始～



スマートコミュニティのまち並み
(写真右:LoRaWAN ゲートウェイ・ポール高さ 8m)

株式会社ミライト(本社:東京都江東区、代表取締役社長:中山 俊樹)は、「浪江町復興スマートコミュニティ導入促進事業」の一環である「浪江町幾世橋災害公営住宅太陽光発電設置工事」を受注しました。当該工事における受注業務のひとつである HEMS において、各戸のスマートメータ(電力計)の通信方式として、ミライトが手がけるIoT技術であるLoRaWANが採用されていますが、4月15日、利用開始後初めての1か月間の利用状況の検針が行われ、遠隔検針システムの適正な稼働が確認されました。

ミライトが納入した遠隔検針システムに利用しているLoRaWANは、少ない消費電力で広いエリアをカバーする無線通信技術であるLPWAのネットワーク規格のひとつで、IoT向け無線通信技術を用いています。1GHzより低いサブギガ帯域を用い、伝送距離は最大10km程度。免許不要の周波数帯域を利用するオープンな通信規格です。今回の工事の受注に際し、ミライトでは、同技術を活用したシステム構築に関し、本社所在地である豊洲にてLoRaWANネットワークを提供、一般企業による実証実験を支援するなどの多くの実績を技術的裏付けとして取り組みました。

ミライトは、「浪江町幾世橋災害公営住宅太陽光発電設置工事」において、85 戸の災害公営住宅と集会場1棟の新設に伴い、各戸に太陽光発電(3kw)、リチウムイオン蓄電池(11kWh)、HEMSを設置しました。約半年間の工事期間を経て、2019年2月末に完工し、遠隔検針システムにおいては、3月13日から、遠隔による電力の測定が開始され、実用化に至っています。利用者の方へは HEMS として発電量や消費量を表やグラフなどでわかりやすく表示することで、省エネに対する意識の醸成が期待されます。同時に、各戸での電力消費量や太陽光の発電量を、ミライトが提供する LoRaWAN 方式で集会場を経由し浪江町庁舎に伝送することにより、再生可能エネルギーを活用した自営電力としてクリーンな電気の提供、および将来の CEMS 実現に向けた検針データの提供を行っています。

【スマートコミュニティ関連工事についてのお問い合わせ先】
株式会社ミライト
東北支店営業部
TEL: 022-369-7300
FAX: 022-308-1088

【本件に関する報道機関からのお問い合わせ先】
株式会社ミライト 経営企画本部
総務部 広報室
TEL: 03-6807-3711
URL: <https://www.mrt.mirait.co.jp/>